

## 享保14年(1729)能登地震、寛政11年(1799)加賀地震、および平成19年(2007)能登半島沖地震の強震域の関係

### Distributions of the large seismic intensity areas of the 1729 Noto, the 1799 Kaga, and the 2007 Notohanto earthquakes

# 都司 嘉宣 [1]

# Yoshinobu Tsuji[1]

[1] 東大地震研

[1] ERI, Univ. Tokyo

2007年3月25日に能登半島北部を襲った能登半島沖地震では輪島などで震度6強の強い揺れを記録した。ところで歴史上能登半島とその周辺地域で震度6強を記録した例としては享保14年(1729)能登地震と、寛政11年(1799)加賀地震の2例を挙げる事が出来る。本研究では、この2つの歴史地震の原文献に当たり、事象・地点ごとのデータベースを作成し、ピンポイント詳細震度分布図を作成した。その結果、1729年能登地震で震度6弱以上を示した区域は、ちょうど2007年の能登半島沖地震でのその範囲と外接し合っていることが判明した。さらに、寛政11年(1799)地震の震度5以上の範囲は、2007年能登半島沖地震の震度6弱以上の範囲の南限界線で外接し合っていることが判明した。

この関係は、2004年中越地震と、文政11年(1828)越後三条地震、宝暦元年(1751)越後高田地震の各震度6以上の範囲が相互に外接し合っているのと同様であると考えられる。